

# 対話活動計画（案）の概要について

---

2017年4月14日  
原子力発電環境整備機構（NUMO）

- NUMOではこれまで全国各地で地層処分セミナー等の対話活動を展開し、地層処分事業の必要性や安全性を中心に意見交換を行ってきました。
- その結果、参加者の理解を一定程度得ることができたと考えていますが、その数は限られるため、効果的に多くの国民の皆様に関心を喚起する方策を追求していく必要があると考えています。
- こうした中、地域の科学的特性を示すマップの提示による国民の皆様に関心の高まりに期待しており、NUMOとして、その関心に応えられる効果的かつ効率的な広聴・広報の場を設けていく必要があると考えています。



こうした問題意識の下、前回のWGでのご意見も踏まえ、前回お示した対話活動計画の概要のうち、全国的な対話活動の部分について、改めて次ページのとおり整理しました。

# 対話活動計画（全国的な対話活動の部分）の概要

## （地層処分の安全性・必要性の理解促進）

- マップ提示を契機に日本の地下環境の特性等に関心を持って頂き、地層処分の安全確保の考え方についてご理解を得るため、引き続き、広く全国で対話活動を展開していきます。
- 原子力発電を利用してきた私たちの世代の責任として、社会全体で解決していく必要があることについて理解を広げていきます。その際、様々な処分方法が検討された結果、地層処分が人間生活から廃棄物を隔離する最良の方法であることが国際的に共通した考え方であることについても、丁寧に説明します。

## （多様な形式での広報・対話活動の展開と議論内容の充実）

- 広く国民各層の理解を得るため、マスメディア広報やWebメディア広報、人が集まりやすい場所に出向く形での広報、より密度の高い車座の意見交換会など、多様な形式で活動を展開していきます。
- その際、対象となる方々の関心の内容や知識の多寡などに応じた効果的な内容となるように努めます。例えば、
  - ✓ （基本的なところに関する関心に対し）マップ提示の趣旨や、現世代の責任として捉える必要があることなど地層処分の必要性について丁寧に説明します。
  - ✓ （安全性に関する関心に対し）マップ提示と処分地選定調査の関係や安全確保の考え方、安全性を高めるための技術開発の内容、超長期にわたる安全評価の考え方等について、分かりやすい広報素材を準備して丁寧に説明します。
  - ✓ （地域に受け入れて頂く方策に関する関心に対し）これまでは主に安全確保の考え方を紹介してきましたが、処分施設の操業から閉鎖までの事業イメージのほか、大規模かつ長期の事業として地域の経済社会や自然環境などに配慮し、どのように地域と共生を図っていくのか、といった点も紹介しつつ（4ページ以降参照）、国民の皆様のご意見を積極的に伺い、適切に事業の具体化に活かしてまいります。
- また、NUMOが主催する活動への参加だけでなく、国民の皆様による主体的な学習活動を呼びかけ、その成果を広く共有するとともに、既に学習頂いている方から関係者に学習を働きかけて頂くなど、学習のすそ野を広げていきます。

→ こうした活動を通じ、一人でも多くの方に処分事業に対する関心を深めて頂きたいと考えています。

# マップ提示から処分場の建設・操業・閉鎖までのイメージ

※座標軸の長さは期間の長さを表さない

20年程度 50年以上

## 国によるマップの提示

地域ごとの  
きめ細かな  
取り組み

情報提供・理解促進  
^ 第1ステップ v

主体的な学習の支援  
^ 第2ステップ v

地域全体への広がり  
^ 第3ステップ v

国民の皆様や地域の方々の声を  
踏まえてプロセスを具体化

文献調査の受入れに繋がって  
いくことを期待

文献調査に関する国による  
申入れ

## 法定調査

① 文献調査

② 概要調査

③ 精密調査

処分地の決定

処分場の建設

処分場の操業

処分場の閉鎖

## 全国的な 取り組み

### <国民の皆様との対話の継続>

- ・現世代の責任で問題を解決していくことの必要性
- ・地下の安定性や地層処分事業で考慮すべきリスクとその安全確保策
- ・事業に貢献して頂く地域に対する敬意や感謝の念の国民的共有の重要性

国民の皆様に分事として  
関心を持ち続けて頂けるよう  
全国的な取り組みを継続

各調査段階において地元自治体の意見を聴き、これを十分に尊重する(反対の場合には次の段階に進まない)。

回収可能性あり

# 【参考】処分施設の操業から閉鎖までの事業イメージ(1)

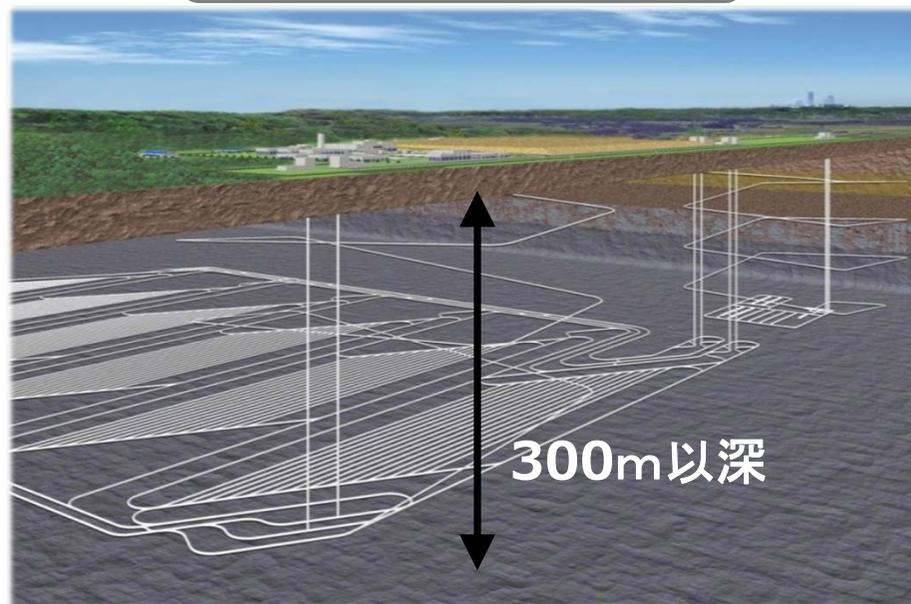
- 処分施設はスケールメリットを考慮し、ガラス固化体を4万本以上埋設できるものを1ヶ所建設することを計画しています。
- 処分施設の規模は、地上施設が1～2km<sup>2</sup>程度、地下施設が6～10km<sup>2</sup>程度、坑道の総延長は200km程度と見込んでいます。

## 【高レベル放射性廃棄物処分施設(イメージ)】

地上施設: 1～2 km<sup>2</sup>程度



地下施設: 6～10 km<sup>2</sup>程度



# 【参考】処分施設の操業から閉鎖までの事業イメージ(2)

処分事業に伴って想定される、騒音や振動、河川等の水質など周辺環境への影響については、調査と予測評価を行い、徹底的な対策を講じます。

## －地上施設における工程（1～4）－

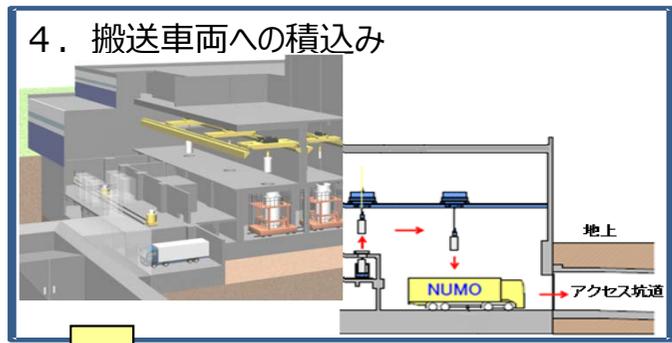
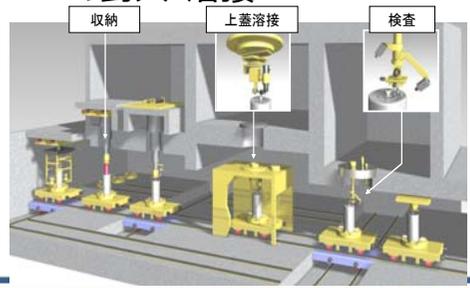
1. 地上施設への輸送



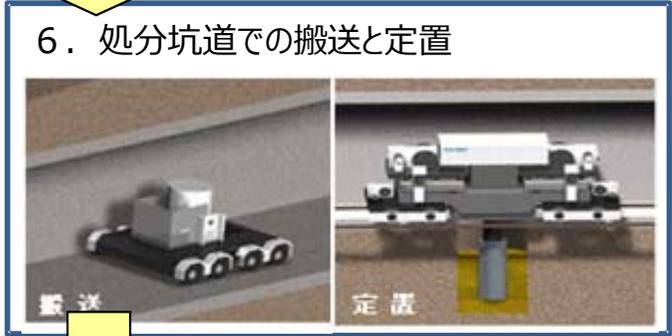
2. ガラス固化体の受入・検査・一時仮置き



3. ガラス固化体のオーバーパックへの封入・溶接



## －地下施設における工程（5～7）－



次ページへ

# 【参考】処分施設の操業から閉鎖までの事業イメージ(3)

地下施設を閉鎖し、地上施設を解体・撤去している間も周辺環境への影響を継続的にモニタリングします。また、閉鎖後も必要に応じてモニタリングを実施します。

## －施設の閉鎖・管理終了後までの流れ（8～10）－

8. 地下施設閉鎖、地上施設解体撤去



9. 閉鎖後の管理(必要に応じて)



10. 管理終了後 (例:公園の設置)



# 【参考】処分施設受入れ地域での地域共生のイメージ

NUMOとしては、国の協力も得ながら、地域の方々とコミュニケーションを重ね、ニーズを汲み取り、地域共生策を具体化してまいります。

## 安心して暮らせるまちづくり ～NUMOのふるさとの町として～

- 安心して子供を産み、育てられる町に医療インフラの充実
- 子供もお年寄りも一緒に暮らせるコミュニティをつなぐ交通・情報インフラの充実



## 事業にともなうインフラ整備等 ～地域の利便性等の向上～

- 道路・港湾の改修・拡張、情報通信システムの向上
- 地下研究所、技能訓練センターの整備



## 活気のあるまちづくり ～生き生き地域社会の実現に向けて～

- 地元経済の活性化に貢献（資材の地元調達、地域特産品の販売支援等）
- 若者が定着できる雇用の創出と雇用につながる教育投資
- 魅力的なまちづくりのための文化的支援

